

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年11月1日（水） 午後2時から3時40分まで
場 所	久慈川日立南交流センター
出席人数	(1) 市 民 25人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計31人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>( 質問 ) (東小沢学区) 計画では、具体的な学校名まで示すのか。</p> <p>( 事務局 ) 学校ごとに、存続や統合、学区の見直しなどについて整理をし、年次的なものも盛り込んだ計画としたいと考えている。</p> <p>( 質問 ) (東小沢学区) 適正な規模とは、1学級何人が理想か。</p> <p>( 事務局 ) 1学級の人数は、国・県の基準で考えている。小学校1、2年生は1学級35人。36人なら2学級になる。小学3～中学3年生は40人。茨城県では少人数教育を目指して、1学年で35人を超える学級が3学級以上あった場合は1学級増やす、弾力的な運用をしている。教職員の配置も関係するので、日立市独自で30人学級や20人学級ということは打ち出しにくい。</p> <p>( 質問 ) (東小沢学区) 東小沢小は、久慈中や坂本中に行っていて、学区が崩れかけている。 地域としても意識しなければならないが、そもそも変則的な学区の見直しなどは検討しているのか。</p> <p>( 教育部長 ) 学区の見直しも検討する。旧町村の名残だと思うが、必ずしも距離によって学区が決まっている訳ではなさそうで、住民感情もあるだろう。地域で話し合ってもらわなければならないこともある。</p> <p>( 質問 ) (東小沢学区) いじめの話題が多いが、どのように対応しているか。</p> <p>( 事務局 ) 親御さんとしても心配な点だし、お子さんにとっても大きな問題だと思う。子どもたちが安心して生活できるような学級、学校になるよう、子どもたち自身も教職員も努力している。内に籠ってしまう声を拾っていき</p>

ように努力していきたい。

( 質問 ) (坂本学区)

素案におおむね賛成である。

丸2年検討して計画ができて、実際に統合となるのは、いつ頃か。

( 事務局 )

平成31年3月に計画を策定する。その後、着手できるには少し時間がかかる。施設の整備を伴う場合や様々な協議が必要になる場合などもあり、1か所当たり3年程度はかかると思う。一気にはできないので年次計画とするが、10年先を見越した計画を考えている。地域によっても違ってくると考えている。

( 意見 ) (東小沢学区)

10年後では、社会情勢も変わっている。予測よりも速いスピードで子どもの数が少なくなると思う。計画を作っても見直しが必要になる。あまりゆっくりはできない。早く取り組んだ方がよい。

( 事務局 )

学校ごとの児童生徒数の推計も行っているので、見極めていきたい。

( 質問 ) (東小沢学区)

遠方から通うことになる生徒もいると思う。東小沢学区から久慈中に自転車通っている子がいるが、雨の日などはかわいそうだ。スクールバスを出す考えはあるのか。

( 事務局 )

仮に統合ということになれば、通学距離は長くなる。徒歩で通える範囲と考えているが、場合によってはスクールバスも考えなければならない。路線バスの活用やマイクロバスやジャンボタクシーのようなものでもいいかもしれない。

( 意見 ) (東小沢学区)

マイクロバスのようなものでよいから、考えてほしい。

( 意見 ) (東小沢学区)

子どもが減ることが前提のようだが、減少を食い止める施策を検討しているのか。東海村などは、子育てしやすい、定住しやすいような施策に取り組んでいる。現状では子どもや孫を東小沢小に入学させるかどうか迷ってしまう。対策を講じてほしい。

( 教育部長 )

市では、これまでも定住政策を検討してきたし、具体的な事業も実施している。他市町村においても様々な施策をPRしているが、実態としては子どもの数は増えておらず、減少傾向は止められていない。日立市の場合、転勤や工場の撤退など企業の業績との関係で減ってしまうこともある。なかなか施策の効果が上がらない。子どもたちが東京の大学に行って戻ってくるかという戻ってこない、東京で就職してしまう。少子化を止めると言われるが、なかなかすぐには効果が上がらない。減少傾向は食い止めることができないという判断で、このような検討していることを御理解いただきたい。

( 教育長 )

どこの市町村も同じようなメニューは行っている。

今の子どもたちが元気に成長し優れた成果を上げていることも見ている。数だけで語れないことも理解できる。しかし、将来のことを皆さんと共に考えていかなければならないと思っている。アイデアがあれば、ぜひ御披露いただきたい。

( 意見 ) ( 東小沢学区 )

私は30年前に東海村から転入したので、東海村と比較したくなる。

自分の子どもは東小沢小を卒業したので、学校の良さは知っているが、孫を入学させるか迷う。東小沢小の教育の在り方はどうなるのか心配になる。

東小沢小に入学すべき子どもの流出も止められない。坂本小に行ってしまう。来年は何人入学するか、常に不安。入学予定の保護者に説明会を開催するなど、在籍数を増やす働きかけをしてほしい。東小沢小に、中里小のようなシステム(特認校制度)を導入できないのかと思う。

( 意見 ) ( 東小沢学区 )

自分の子どもは地元の家を建てる予定だったが、転勤してしまった。2~3年後に帰ってくる予定はあるが、ここに家を建てて、孫を東小沢小に入学させてもよいか迷っている。息子は、東小沢小の事情にうすうす気付いているが、嫁には小規模校であることを言っていない。伝えたら帰って来ないかもしれない。ここに家を建てることを嫌がるかもしれない。安心感がないと住めない、帰って来られない。

( 事務局 )

切実なことだと思う。お子さんがいる限り、地元の学校に通えるような方法は講じていかなければならないと考えているが、今後の検討の進め方によっては、通学が遠くなってしまふかもしれない。通学の利便についても検討していきたい。

( 教育部長 )

ある程度の規模は必要だから統合は賛成だが、いつなのか、統合の時期を教えてくださいというご意見は、どの会場でもいただく。将来の姿を早くお示しすることが有効かと思う。

( 意見・質問 ) ( 東小沢学区 )

5年くらい前に(東小沢小の統合について)教育委員会に質問したことがある。その時は、検討していないと言われたのに、なぜ、今なのか。那珂市、常陸太田市などは、統合が終わっている。日立市は遅い。どんどん減って計画倒れになる。早く道筋を立ててほしい。

ここは、津波や久慈川洪水時の浸水の心配もある地域だ。その意味でも、安心安全な環境を作ってくれば、地域に戻ってくれる人もいるのではないか。

( 事務局 )

検討が遅いというお叱りは、他の地区からも受ける。近年、予想を上回る速さで人口減少や少子化傾向が増しているので、具体的な施策を検討している。他市町村においても、統廃合を繰り返さなければならぬところ、

広域に統合しているところなどいろいろだ。十分検討させていただいて、早めにお示ししていきたい。

**( 意見 ) ( 東小沢学区 )**

私は、君田小中学校の出身。在籍していた60年前も20人位だった。小規模校だからこそその良いところがある。基本方針を見ると、小さい学校は劣っているのかと考えてしまう。東小沢小の子どもは成績が悪いのか、体力が劣っているのか。

学校は、地域の交流の場で、地域の拠点となっている。活力の元となっている。少なくなったから統合すればいいという考えはやめてほしい。

小規模になったから学力が落ちたとか、人間関係ができなくなったとか、犯罪が増えたとか、そういったことがあれば話は別だが、東小沢小に問題となることはない。ぜひ、なくさないでほしい。

**( 事務局 )**

小規模校の良さも十分承知している。一人一人に目が行き届き、地域との結びつきが強く良い教育ができるメリットもあるが、メリット・デメリットを整理して考えていきたい。

学級の単位としては小さく、学校としてはある程度的人数の中で切磋琢磨していくことも必要と考えて、このような基準をお示しした。それぞれの地域の特性などもあるので、一律に数で考えるようなことはできないと思っている。

**( 教育部長 )**

検討委員会でも同じ意見が出ている。この議論になると結論が出ない。計画が出た後、地域で揉んでもらうことになると思う。どうしても存続ということになれば尊重しなければならないと思っている。

子どもにとってどちらが良いかは迷うところ。君田小中の親御さんからは、もっと早く統合してほしいという声もあったと聞いている。どちらがいいということではなく、どの辺で合意ができるかということだ。大人たちがきちんと議論して方向性を出さなければならないと思っている。

**( 質問 ) ( 東小沢学区 )**

茨城キリスト教大学で教員養成の教員をしている。茨キリ大の学生は、地元に残って教員になりたいという希望が多い。統合して学校が減ってしまったら先生が余ってしまう。教員採用が減ってしまう。対策はあるのか。

**( 事務局 )**

学校が減ると、定数上は配置される教員は減るが、国・県では少人数指導の効果を認めて、加配をするなどしているので、教員として市内の学校に配属される数が極端に減ることはないと考えている。近年は特別支援教育が注目され、特別支援学級が増えているため、その教員が必要となっている。急激に教員採用が減るということはない。むしろ、茨城県は採用を徐々に増やしているところである。

**( 質問 ) ( 東小沢学区 )**

資料2の1ページ、児童生徒数の推移のグラフで、中学生の減少が大きいが、私立中学校へ行ってしまうことなどが原因か。

( 事務局 )

小学校は6学年、中学校は3学年なので、見かけ上は数が少なくなる。

( 質問 ) ( 東小沢学区 )

検討委員会で学校の視察を行ったようだが、学校の実態や結果などを知ることができるか。

( 事務局 )

検討委員会の議事録は、ホームページ上で公開しているので、見ていただける。

( 質問 ) ( 東小沢学区 )

この問題は、地域によって温度差があると思う。

東小沢学区では、小学校が統合される前提で保護者に浸透している。

中学校はコミュニティと離れているので統合は進めやすいと思うが、坂本中も統合の対象となるだろう。どのように考えているか。

( 事務局 )

情報を整理しているところである。どこをどうするかは、来年度に検討することになっているので、現在は白紙に近い状態。児童生徒数や通学距離などの客観的なデータを見ながら、学校ごとに考えていかなければならない。現時点で決まっている訳ではない。

コミュニティは学校の統合とは別のものと考えている。学校だけでなく、防災や地域福祉などかかわりが深いので、一定の時間をかけて合意が得られた中で整理していかなければならないと考えている。

( 質問 ) ( 東小沢学区 )

中里小の統合の話が出たときのことを聞いたことがある。地域に混乱を及ぼすようなことは、最小限にしてほしい。

( 事務局 )

いろいろなうわさが広まって誤解されることのないように、きちんと話し合い、話し合ったことはしっかりとお知らせし、地域の方々と理解し合いながら進めていきたい。

( 意見 ) ( 東小沢学区 )

地域で話していると、東小沢小がなくなるという話が出てくる。とにかく早く決めてほしい。時間がかかるなら、その点についても、良く説明してほしい。

基本方針を見ていると、学校の先生のことしか考えてないのかと思ってしまう。学級の人数の35とか40とかは変えてもいいのではないか。

部活動も先生方が苦勞されていることを聞く。地域型スポーツクラブなどもできてきているから、学校でやらなくてもいいのではないか。

( 事務局 )

学級の人数は上限である。市内の小学校を単純にならすと28～29人、中学校は32～33人である。教科書の大きさ、机の大きさも変わっており、大人数ではやりにくいという先生方の声もある。何人をもって少人数とするかは答えが出ていないので、基本方針では触れていない。

( 教育部長 )

部活動については、地域の方の協力を相当受けてやっていると思っている。継続的にやっていただける方がいないとか、地域の事情によって違う

と思うが、積極的に取り組んでいただいていると思う。

**( 質問 ) (東小沢学区)**

人口が都市部に集中している。人口は何十年かのスパンで移動していると思う。その流れの中で日立市の人口も減っているのかと思う。そう考えると、何十年か先には、新しい産業が興って人口が増えてくることもあるのではないかと思う。日立市では、人口移動のスパンを考えた施策はあるか。

**( 教育部長 )**

人口は東京に集中している。地方には職がないこともあり都会に集中する。

日立市では平成52年に15万人くらいと予測されている。その規模に向けて事業を進めているが、入口に立ったばかりである。企業町の宿命かなとも思う。

昔は、農業などで人手が必要だったので子どもを産むという循環があったが、AIの発達などで人間が働く場が減ってくると（働き手が必要なくなるから）人口も減る。これからは増えることを望むのではなく、一定の規模になったときに、どう安定させるかを考えるべきだろう。市が、民間企業に直接働きかけることは難しい。企業が外に出てしまったら、引き戻すことは難しい。

**( 意見 ) (東小沢学区)**

人口減少、地域の衰退はどこも同じ。日立市では、第2次産業（製造業）より第3次産業（サービス業）の従事者の方が多くなっている。日立市は、東海村、ひたちなか市、水戸市などにどんどん人が流出していて、都市間競争に負けている。市内に働く場を作ってほしい。子育てをしている人たちが日立市に住めるように。地域力を高める施策をしてほしい。そうすれば、人口減の速度を緩めることができるのではないか。都市間競争に勝てる施策を考えてほしい。安心して住まいを建てられるように。

一部の学校の統合の問題ではない。学校は、特になくしたくない。コミュニティの崩壊につながると思っている。

**( 意見 ) (東小沢学区)**

東小沢小のPTAである。自分の同級生の女性で、地元に戻っているのは、ほぼ教員。働く場がないので戻ってこない。市全体で考えていかなければならないと思う。

懇談会は、当事者が参加しやすい設定にしてほしい。開催時間を夜か週末にしてほしい。関心があるが仕事があって行けないという保護者も多い。

東小沢小に入れた方がいいが、卒業まで学校があるかどうか分からないという不安がある。しばらく廃校はないということであれば、はっきり知らせしてほしい。来年度の入学予定が7人と聞いているが、実際入学するのはもっと少ない。坂本小や久慈小に行ってしまう。子ども会も一緒に打ち解けていたと思っていたのに、別の学校に行ってしまう。残念で仕方がない。

簡単に学区外通学を許可してしまうのは問題がある。幼稚園の友達がいなかったか親の友だちがいなかったという理由で学区外に行ってしまうのは残念

だ。東小沢小に来れば、みんな仲良くなれるはず。

中里小や山部小は東小沢小より人数が少ないのに、学級数が多いのはどんなからくりか。学区外通学の許可の基準を聞きたい。

( 事務局 )

前回の懇談会の反省を踏まえて、今回はブロックに分け、3パターン(平日午後、平日夕方、土曜日)の時間設定をしている。どこに来ていただいてもよいことにした。次回は、更に工夫したい。

指定学校の変更については、申請理由が適正であれば許可している。最も多いのは、通学上の安全性と利便性である。個別に対応している。

将来への不安があると思うので、基本計画案ができれば、できるだけ早くお知らせしたい。

( 質問 ) ( 東小沢学区 )

学校の統合を決めなければならないリミットがあるのか。

( 事務局 )

特にない。

ぜひ、学校適正配置検討の進捗状況を、地域に持ち帰ってお知らせいただきたい。

以上